

演題名	施設内廃棄分におけるゴミ処理コストの削減		
施設名	ライフケアガーデン湘南	(ふりがな) 発表者(職種)	わかつきみつる 若月 美弦 (介護士)
(ふりがな) チーム名	えるしーじーさみっと LCGサミット		
分類	④無駄の削減や能率向上、業務環境の改善をめざすもの		
取り組種別	問題解決型		
改善しようとした 問題課題	様々な運営コストがある中、施設負担100%の廃棄物処理費用は、 ご入居者の増加に伴い増大傾向である為、有料ゴミ処理コストを削減したい		
改善の指標と その目標値	(指 標) 有料ゴミ処理コストの減量比率 (目標値) 昨年度の平均4.5%を上回る 5%にする		
実施した対策	①可燃ごみのうち0円になる古紙類を完全分別する仕組み作り ・分別用ゴミ箱の設置 ・分別ルールの可視化 ・コスト意識・分別意識の啓発として毎月の処分費用を掲示 ・職員全員参加で、無理なく続けられる仕組み作りとアイディアの実行 ②可燃ごみは重量計算で請求される為、軽量化する仕組み作り ・植栽ゴミの乾燥		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前)古紙類は段ボール以外の分別をしておらず、可燃ごみで処分していた為、 1キロ当り32円かかっていた。段ボールのみの分別による減量比率は4.5%程度であった。 (実施後)古紙として引取り可能な物を完全分別することで、0円引取りを増量。 これにより減量比率が5%以上となり毎月300～400kg分の費用負担が減らせた。		
歯止めと 標準化	・普段家庭で行っているように事業系のゴミにも分別意識をもつよう意識改革したことが 歯止めとなった。 ・「ゴミを出さない人はいない」をモットーに、分別は特定の職員だけが行うのではなく 職員全員が各自責任を持って関わることで標準化できた。		
活動の種類 ※複数選択可	②複数の職場が連携した活動 ④組織全体で取り組んだ活動	チーム メンバー (職種)	1 飯島 潤 介護福祉士 2 若月 美弦 介護士 3 金子 秀紀 介護福祉士 4 佐々木 香世子 介護士 5 鈴木 栄美子 看護師 6 田村 絵里 事務 7 菊池 詩穂 栄養士 8 皆川 芳彦 施設管理 9 浅原 富美子 通所)介護福祉士
活動の場 ※複数選択可	②支援部門 ③管理部門 ④その他		
活動期間	令和5年4月～11月		
リーダー名 (職種)	飯島 潤 (介護福祉士)		
活動回数	15		
		回	

【現状把握】

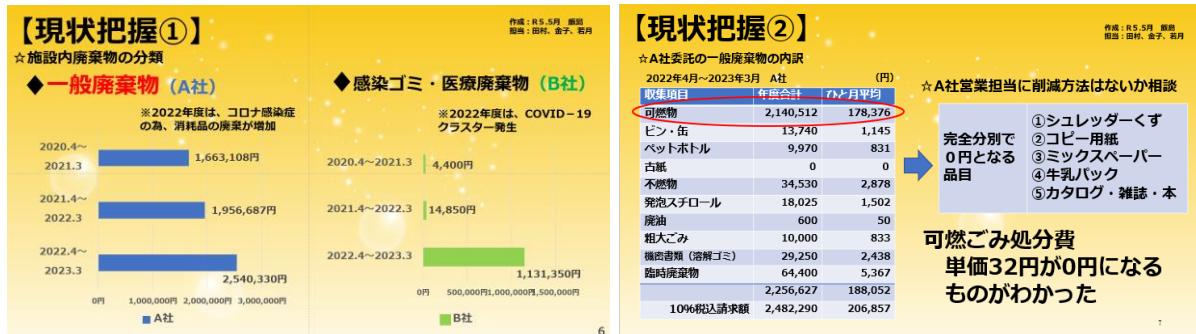
施設負担100%の廃棄物処理は入居者増加に伴い増大。コスト削減の必要がある。

施設内廃棄物は、一般廃棄物、感染ゴミ、医療廃棄物、の3種類で2社に委託している。

感染ゴミと医療廃棄物は、感染症発生によって変動がある為、今回は一般廃棄物に着目。昨年は200万円以上であった。

一般廃棄物の内訳を検証。可燃ごみは、分別により削減可能と判明。段ボール以外の5種類は未分別であった。

分別すれば 処分費 1キロ32円が 0円にできる。



【目標設定】

有料ゴミ処分コストの減量比率を

「令和5年11月までに 5%にする」とした。

【目標設定】

何を

有料ゴミ処理コストの減量比率を

いつまでに

10月31日までに

どうする

5%にする

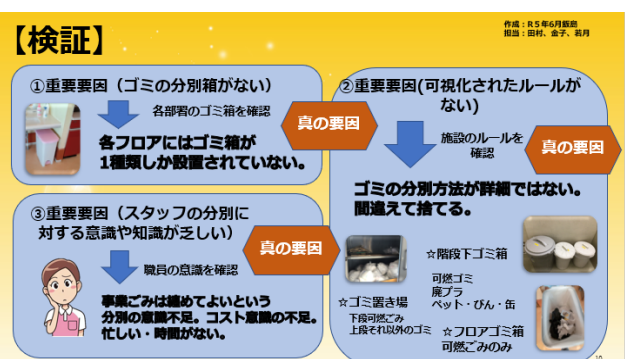
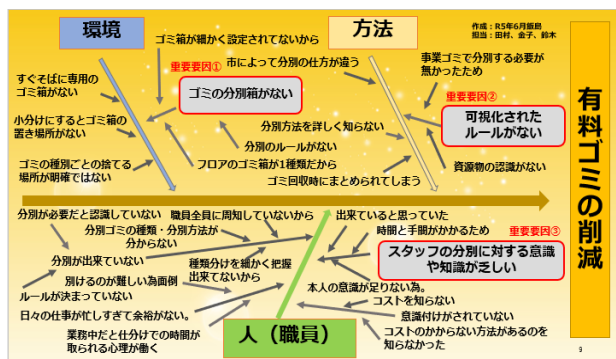
【要因解析】

問題点を特性要因図に整理、下記3点を重要要因とし検証。

- ①ゴミの分別箱がない
- ②可視化されたルールがない
- ③スタッフの分別意識や知識が乏しい

検証により、下記3点を真の要因と認定。

- ①各フロアのゴミ箱が1種類しかない
- ②ゴミの分別方法が詳細でない
- ③事業ゴミはまとめてだせるという認識の誤り、コスト意識不足



【対策の立案と実施】

重要要因に対し、3つの対策を計画し実施。



- ①各階スタッフコーナーに分別用ゴミ箱を設置
- ②1F階段下にゴミの一時集積所を設置
- ③入居者のゴミ分別の為、訪室カートに分別袋設置

【効果の確認】

【効果の確認①】

☆ 2023.5月～10月 可燃ごみ減量分の一覧表

	未分別の場合の量 A	実際の請求量 B	古紙回収分 C	植栽減量分 D	C+D計	減量比率
5月	8,200Kg	7,810Kg	390Kg	—	390Kg	4.75%
6月	6,457Kg	6,154Kg	299Kg	4Kg	303Kg	4.69%
7月	7,069Kg	6,793Kg	276Kg	※植栽なし	276Kg	3.90%
8月	7,418Kg	7,018Kg	380Kg	15Kg	395Kg	5.32%
9月	5,379Kg	5,000Kg	379Kg	※植栽なし	379Kg	7.00%
10月	5,920Kg	5,522Kg	394Kg	4Kg	398Kg	6.72%

※ 未分別の場合の量A = 実際の請求量B + 古紙回収分C + 植栽減量分D
 ※ 減量比率 = (C+D) ÷ A × 100

23

活動開始から6か月間の請求金額から減量比率を計算し
 平均値を算出した。

【効果の確認②】

減量比率（5月～10月）⇒ **平均 5.4%**

削減した経費 6か月合計 **68,512円**

初期投資（メタルラック購入費）16,429円を差引いても

52,083円 節約成功!!

地道な節約で **年間約137,000円**の経費削減見込

サステナブルな活動を構築

その結果、平均5.4%となり目標達成。
 金額に換算すると、今後年間137,000円の削減が見込める
 サステナブルな活動が構築できた。

【無形効果】

職員のゴミ減量に対する意識が向上
 ⇒ **様々な提案やアイデア**がよせられた

＜具体例＞

- ① 再購入の物品は出来るだけ詰替えタイプを選びパッケージゴミの減量に。
- ② 古紙類を束ねるビニール紐は、リネン納品時の束ね紐をリユースする。
- ③ 穴あけパンチの紙ゴミはシュレッダーゴミとして出す。
- ④ 高額な引取料の不燃物（粗大ゴミ）の分別ルールを再構築し減額をはかる
- ⑤ 厨房納品時の発泡スチロール箱は、廃棄せず“通い箱”として業者へ返却。

22

古紙類以外にも様々な提案やアイデアが寄せられ
 職員のゴミ減量に対する意識の向上がみられた。

【波及効果】

委託業者(A社)は0円で引取る量が増え、一見、減収のようだが、
 古紙類を専門買取業者へ持ち込む為、増量は売り上げ増加になる。
 よって、MVVの価値(バリュー)

“取引先には「納得を」”

に繋がった

SDGsの目標

“13.気候変動に具体的な対策を”へ

繋がる取り組みとなった

⇒可燃ごみを減らすことで、焼却する際に出る
 二酸化炭素(CO₂)の排出量を減らせた

23

委託業者は分別した古紙類を0円で引き取ることになり
 一見減収のようだが、専門買取業者へ持ち込む量が増えた為、
 売上増加となり、MVVのバリュー『取引先には納得を』に
 繋がった。また可燃ごみが減ることでCO₂排出量が減り
 SDGsの目標13番『気候変動に具体的な対策』にも繋がった。

【標準化と管理の定着】

～ゴミを出さない人はいない～

このモットーのもと、一部の職種や職員だけが
 汗をかくのではなく、図のように全員が自分事と
 して取り組む仕組みができたことで、今後も
 活動が継続されていく。

We are One Team!

そして

our team

【反省と今後の進め方】

出されたアイデアは次々と実行したが
 大幅な金額の削減に至らずコスト削減の
 難しさを実感した。
 今後は地道に積み上げた結果を可視化し
 「継続は力なり」を実行し成果を上げていく。

ご清聴ありがとうございました

【標準化と管理の定着】

	何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どうする
標準化	コピー用紙・ミックスペーパー等を	資源として廃棄するため	各々の職員	毎日のゴミ捨て時	各フロアの分別ゴミ箱	分別し資源化する
	牛乳パックを	資源として廃棄するため	厨房職員	作業の合間に	厨房	洗浄・乾燥・開いてまとめる
	植栽ごみを	水分軽量化のため	施設管理職員	植栽刈り取り時	施設敷地内	一定期間、乾燥させる
管理	分別された可燃ごみを	正しい分別のため	各々の職員 同士	集積場所に捨てる際に	一時集積場所	分別が正しいか確認し廃棄する
	新たな分別が必要なゴミを	正しい分別のため	関係する部署	発生した際	発生部署	分別方法を作成し、伝達する
教育	可燃ごみの分別方法を	入職職員が知るため	トレーナー職員	トレーニング時に	各フロア	説明する
	可燃ごみの処分費を	職員の意識付けのため	事務職員	毎月請求額判明後	1F階段下の非常口扉	グラフで可視化し掲示する

24

【反省と今後の進め方】

ステップ	良かった点	悪かった点	今後の進め方
1. テーマ選定	・職員全員で取り組みができた ・経費削減を意識出来た		さらに分別や削減できるものがないか検討を行う
2. 現状把握 目標設定	テーマに向けて同じ目標に取り組むことで共通意識が持てた	目標の参考となる数値が分からず可能性の目標になってしまった	取り組みを継続していく
3. 要因の解析	ごみの分別について現状の問題点を知ることが出来た		
4. 対策・立案・実施	・同じ目標に取り組むことで共通意識を持つ事が出来た ・部署ごとに出来る事を考えた	様々なアイデアがあったが経費削減に繋がらないものも多かった	オムツの使用量はADLの向上目指し、排泄委員と協力し廃棄量の減量を検討する
5. 効果の確認	施設・業者・環境、『三方良し』の結果となった	実施した対策は元々準備が安いため、大幅な経費削減にはならなかった	継続的な対策を考え、さらなる分別、減量を行う
6. 標準化と 管理の定着	標準化により有料ゴミが減った	緩やかな減り方の為、効果が伝わりにくかった	地道に継続した結果を可視化して周知していく